

審査の結果の要旨

論文提出者氏名：小森 真樹

本博士論文はアメリカ合衆国における科学を巡る対立をミュージアムの現場から考察することで、現代アメリカ社会の分断を理解しようとする試みである。真実を提示する責任と権威を与えられていると一般的にはみなされるミュージアムが、現代のアメリカ社会では科学的真実を巡る対立を生み出していることを極めて興味深い事例を通して示している。

論文は序章と結論に加え、三部・八章構成となっている。第一部（一章）ではミュージアム研究の理論を概観し、とくにアメリカにおいて科学知識がミュージアムでいかに取り上げられてきたかを考察する。また、理論とフィールドワークを組み合わせた本論文の方法論を提示する。

第二部と第三部はそれぞれ事例研究となっている。第二部（二～四章）では医学と人体の展示が生み出す科学知識を分析するために、ペンシルバニア州フィラデルフィアにある「ムターミュージアム」という私設の医学博物館に注目する。第三部（五～八章）はミュージアムにおける宗教と科学知識の関係を考察するために、ケンタッキー州の「クリエイション・ミュージアム」（天地創造科学博物館）と「アーク・エンカウター」（ノアの箱船との出会い）を取り上げる。これら二つの機関での調査を通して、本論文は「ミュージアムにおける科学知識の政治学」という観点から、現代アメリカ社会の分断のメカニズムを解明しようとする。

より具体的には、まず第二章ではミュージアムにおける身体表象の先行研究を紹介する。とりわけパブリックヒストリーの観点から、医学・身体展示と科学的知識の流通の関係を考察する意義を確認する。そのうえで、第三章ではアメリカにおける医学・身体展示を歴史的に概観し、博覧会やPTバーナムのフリークショーなどに触れながら、身体をめぐる大衆の眼差しの力学を論じる。第四章ではフィラデルフィア医師協会が創設したムター博物館に焦点をあてる。さまざまな文書資料に加え、博物館を繰り返し訪れ、関係者にインタビューを行っている。ムター博物館の歴史を概括した後に、医学施設として始まった同博物館がフィラデルフィアの観光の発展とともに、より多くの来館者を意識した「文化施設」へと変容していく様子を説明する。さらに、展示される物が医学に使用される「器物」からある種の「芸術」へと変化していくことも示されている。そして、身体の展示に伴う暴力性が正当化されていくメカニズムが明らかにされる。

第五章では宗教と展示の関係が取り上げられる。特定の宗教的思想を「科学的」に展示しようとするミュージアムをいかに理解するべきか。この問いに関する先行研究が論じられる。第六章ではアメリカにおけるキリスト教右派の現状とそのような原理

主義者の大半が信奉する創造論（クリエイショニズム）の社会的意義が紹介される。その影響は政治、教育、大衆文化と広範囲に及ぶ。第七章と第八章ではその具体的な例としてケンタッキー州にある「クリエーション・ミュージアム」と「アーク・エンカウンター」を論じている。前者は来館者の娯楽志向に対応しつつも、創造論を「科学的」に立証しようとするミュージアムで、後者は旧約聖書に登場するノアの箱船を「科学的」に再現した施設である。実際に現地を訪れ、両施設の関係者のみならず、来館者や地域住民のインタビューも行い、創造科学が生み出すメッセージを分析している。

これらの章を通して、本論文では現代社会において、多様な価値を調停する機能を求められているミュージアムが、実際には価値の交流を妨げ、社会的な分断を深める要因にもなっていることが論じられている。社会の対極化が進むアメリカでは、ミュージアムもその亀裂をさらに深めることが具体的に指摘されている。

本論文は今日のアメリカ社会と文化を理解する極めて有益な学術的知見を提供するものであり、審査委員からはその斬新な視点と事例の興味深さが評価された。地域文化研究の博士論文として将来性に富み、新しい分野を切り拓く潜在力を有するものである。

同時に、いくつかの重要な批判的な意見も出された。とくに聞き取り調査の結果が十分に活用されていないという指摘が繰り返された。また各章間で長さや方法論、議論の厚みにばらつきがあり、資料のバランスも悪いという批判もあった。加えて、事例として挙げられているのは極めて特殊なミュージアムであり、より一般的な自然史博物館やミュージアム以外のメディアとの比較考察がなされていない。また、分断を論じながら人種と階級概念が十分に展開されていないこと、教育装置としてのミュージアムを論じながらも子供への教育効果を十分に検討していないことなどの問題が指摘された。

ただし、これらの疑義は、学際的で極めて野心的な本論文の目的から生まれるものであり、この研究が提示した斬新な知見とその価値を減ずるものではない。以上を総合的に考慮し、本審査委員会は本論文が博士(学術)の学位を授与するにふさわしいものと認定する。